

<小学生の部 最優秀賞>

わたしが好きな新庄市

新庄市立新庄小学校 5年 横山 みと

「はいっとう。」

げんかんで声をかけると、じいちゃんが

「よぐ来たな。」

とにっこりしてむかえてくれます。「はいっとう」とは、ごめんくださいという意味の新庄の方言です。じいちゃんばあちゃんの家遊びに行き、二人の話を聞いていると、心がほっこりします。わたしは、新庄の方言が大好きです。

そんな新庄のことを総合の時間で、くわしく調べることになりました。テーマは、「新庄まつり」です。山車づくりを見学したり、山車の人形を作っている人の話を聞いたり、はやしを体験したりして、新庄まつりは、たくさんの人の力で大切に受けつがれているとわかりました。学習のまとめでは、げきを発表しました。米の不作で苦しむ人々を元気づけるために、新庄まつりを始めた「との様」の物語です。わたしは、「との様」戸沢正のぶ公をえんじました。せりふに新庄の方言を取り入れると、会場はもり上がり、大きなはく手をもらいました。いっしゅんできよりがちぢまった感じがして、新庄の方言ってやっぱりいいなあと思いました。

その年の七月、新庄市では記録的な大雨がふりました。いつも通っている道が、土しゃくずれで通行止めになり、その先に住むじいちゃんばあちゃんのことを心配でたまりませんでした。新聞やニュースで、多くの人がこまっているのを知り、わたしもとの様のように、新庄の人たちを元気づけたいと思いました。

「チェレンコヤッサー。」

八月二十四日のよい祭りで、大きな声を出しながら山車を引っぱりました。手をふってくれる人や、笑顔の人がたくさんいました。新庄まつりには、人を元気にする力があると思います。昔、との様が人々を元気づけようとしたねがいは、今の新庄にも、とどいていて感じました。そして、新庄の方言や祭りは、みんなの心をつなぐ宝物だと気づきました。これからも、その宝物を大切にして、新庄が好きな人をふやしていきたいです。